

生殖補助医療による精神的ストレスと 出生児に対する愛着への影響について

Yoshimasu *et al.* Assisted reproductive technologies are slightly associated with maternal lack of affection toward the newborn: The Japan Environment and Children's Study. 2020;46(3):434-444.doi:[10.1111/jog.14189](https://doi.org/10.1111/jog.14189)



【はじめに】

母親が赤ちゃんに対して抱く否定的な感情は、母子間の愛着障害の証拠とされています。愛着障害にはいくつかのリスクとなる要因が分かっていますが、体外受精や顕微授精といった生殖補助医療（assisted reproductive technology:ART）が影響を与えているかについては、これまで調査されてきませんでした。そこで本研究では、母子間の愛着障害とARTとの関連性を調べることを目的としました。

【調査項目】

ARTを受けた2,792名、ART以外の不妊治療を受けた3,835名、自然妊娠した78,726名の母親を対象としました。子への愛着を評価する質問への産後1年目における回答のデータを用いて、ARTと子への愛着との関連性を統計学的に解析しました。

【結果】

産後1年目時点におけるARTと母子間の愛着との関連

	全体	愛情不足	怒り・拒絶
自然妊娠	1.00	1.00	1.00
ART以外の不妊治療	1.13	1.08	1.17
ART	1.03	1.10	1.09

※数字は、精神的苦痛のリスクを解析したオッズ比です。この数字が高いほど、自然妊娠または各不妊治療と精神的苦痛との関連性が高いことを示しています。赤色の数字は統計学的に有意であることを示しています。



解析では、子への愛着を評価する8項目の質問全ての合計点数、愛情不足に関わる4項目の点数、怒り・拒絶に関わる4項目の点数のそれぞれについて、自然妊娠、ART以外の不妊治療、ARTとの関連性を調べました。その結果、ARTは愛着全般には関連がありませんでしたが、愛情不足と関連していました。一方で、ART以外の不妊治療は、愛情不足と怒り・拒絶の両方に関連していました。

また、子への愛着と生後半年および1年後の子の発達との関連性を調べたところ、両者の間には有意な負の関連性が見られました。

【この調査でわかったこと】

ARTを含む不妊治療は、母親の子どもへの愛着に負の影響を及ぼすことが分かりました。また、子への愛着の低さは子の成長に悪影響を及ぼすことが分かりました。よって、ARTを含む不妊治療を受けた母子の健康状態を長期にわたって追跡し、支援する体制を作ることが望ましいと考えられます。

今回の研究では、ARTで増える傾向のある低出生児や多胎児の影響は考慮されていませんでした。今後、これらの点を含めた調査への展開が望まれます。